

平成22年度 事務事業評価シート

部署名		企画課		企画係		No	1
施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)		
	14	意欲のある人づくり	3	高等学校・高等教育機関との連携・活用	2	高等教育機関との連携・活用	
事業名	山口東京理科大学連携事務						
予算費目	款		項		目		
	細目		細々目		会計種別		
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)		事業の内容(対象・目的・意図)		事業実施の手段・手順			
山口東京理科大学は昭和63年に短期大学として開校し、その後平成7年に4年制へ改組され、時代をリードする人材の養成、科学技術をもって地方の活性化と教育の充実を図っている。社会が多様化する中で、個性輝く活力ある社会を形成するために、その人の持っている多くの人的・知的資源を活用することが求められている。		高等教育機関と地域の連携を促進し、地域の生涯学習を促進する。		市と大学の人的・知的資源を活用した連携協力事業に関する事項を協議するために、平成18年6月7日に連携協議会を設置した。この協議会で連携協力事業の企画立案し事業を行う。 ・小中学校のほんもの科学体験講座 ・かがく博覧会の実施 ・市民への生涯学習支援事業 ・図書館機能の共有化事業			
活動指標			成果指標		成果指標の到達度(B/A)		
協議会開催回数			実施事業数				
目標値(単位)		実績値(単位)		目標値A(単位)		実績値B(単位)	
2 (回)		2 (回)		11 (事業)		11 (事業)	
%							

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳				財(源割内訳)	国庫支出金	()	
					県支出金	()	
					地方債	()	
					その他	()	
合計		0	0		一般財源	()	
				合計		0	0

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.1	628,000

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課 題	改 善 策
・市と大学の新たな事業展開を図る。	・大学と連携することで有益に実施できる事業を模索する。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	ゼロ予算事業
-----	--------

平成22年度 事務事業評価シート

部署名		教育総務課		政策係		No	1		
施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	14	意欲のある人づくり	3	高等学校・高等教育機関との連携・活用	2	高等教育機関との連携・活用			
事業名	山口東京理科大学連携事業(小中学生ほんものの科学体験事業)								
予算費目	款	10	教育費	項	1	教育総務費	目	3	指導研究費
	細目	1	指導研究費	細々目	17	本物科学体験プロジェクト事業	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)		事業の内容(対象・目的・意図)		事業実施の手段・手順	
子どもたちの理科離れが指摘される中、大学の持つ知的・人的資源を活用し、「ほんものの科学体験」を通して、小・中学生の物質やエネルギーに関する事物・現象に対する関心を高め、理科学習に対する意欲の向上を図るため。		小・中学生に、楽しい実験や講義を通して科学の面白さを伝え、好奇心や興味・関心を高める。		山陽小野田市・山口東京理科大学連携協議会主催の「かがく博覧会」を開催。市内小・中学校児童生徒科学作品展との合同開催、各種展示や実験コーナー、ブース出展やトークショー等。 ※平成22年度は科学作品展とあわせて市内高等学校及び理大によるブース出展。これに加え平成23年度に市内事業所の参画を検討している。	
活動指標			成果指標		成果指標の到達度(B/A)
講座数		受講学校数		21	
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)		%
7(講座)	7(講座)	19(校)	4(校)		

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	報償費	81	56,250	財(源割内訳)	国庫支出金 ()		
					県支出金 ()		
					地方債 ()		
					その他 ()		
			一般財源 ()		81	56,250	
合計		81	56,250	合計		81	56,250
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.1	628,000				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	C あまり目標を達成していない

4 ACTION

課題	改善策
児童生徒数の多い大規模校では、講座の受講人数の制約もあり、手上げにくい傾向がある。	危険な実験については安全メガネを準備する。展示作品については、理科主任の先生方に会場で順番に監視してもらい、また、注意を促す文章を会場に貼る等を行う。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名		教育総務課		政策係		No	2		
施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	14	意欲のある人づくり	3	高等学校・高等教育機関との連携・活用	2	高等教育機関との連携・活用			
事業名	山陽小野田市「かがく博覧会」								
予算費目	款	10	教育費	項	1	教育総務費	目	3	指導研究費
	細目	1	指導研究費	細々目	17	本物科学体験プロジェクト事業	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務			()		予算種別	継続	臨時

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)		事業の内容(対象・目的・意図)		事業実施の手段・手順	
平成18年度2月の山口東京理科大学との包括的連携協定の調印以来、連携協議会を設置して様々な事業を展開してきている。より多くの子ども達に体験的な実験等を通じて、科学を学ぶ楽しさや驚き、感動を体験できる機会を提供しながら、興味関心を喚起し、理解力や科学的知識の習得を進めていく。		子ども達の科学に対する興味の向上(人材育成につながる)		山陽小野田市・山口東京理科大学連携協議会主催の「かがく博覧会」を開催。市内小・中学校児童生徒科学作品展との合同開催、各種展示や実験コーナー、ブース出展やトークショー等。※平成22年度は科学作品展とあわせて市内高等学校及び理大によるブース出展。これに加え平成23年度に市内事業所の参画を検討している。	
活動指標			成果指標		成果指標の到達度(B/A)
来場者数		アンケートで「良かった、楽しかった」と回答数/アンケート回答総数		95	
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)		%
2,000(人)	1,900(人)	100(%)	95(%)		

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	担金、補助金及び交付	500	348,484	財(源割内訳)	国庫支出金	()	
					県支出金	()	
					地方債	()	
					その他	()	
			一般財源		()	500	348,484
合計		500	348,484	合計		500	348,484
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.25	1,570,000				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
来場者が殺到している時間帯は特に実験ブースでの安全の確保や、展示物(小・中学生科学作品)の損傷等に注意する必要がある。	危険な実験については安全メガネを準備する。展示作品については、理科主任の先生方に会場で順番に監視してもらい、また、注意を促す文章を会場に貼る等を行う。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--